

29年10月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 10月1日～ 29年10月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は12社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/10月	11月	12月
入荷動向	スギ	21.4	14.3	14.3
	ヒノキ	0.0	25.0	12.5
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	25.0
消費動向	スギ	14.3	14.3	14.3
	ヒノキ	25.0	25.0	0.0
	カラマツ	50.0	50.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 16.7	△ 8.3	0.0
	ヒノキ	△ 20.0	0.0	△ 10.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0

・製材用原木の入荷動向は、スギは3カ月連続増加。ヒノキは10月の横ばいから11月、12月は増加に。カラマツは10月、11月の減少から12月は横ばいに。トドマツは10月の減少から11月は横ばい、12月は増加に。

・消費動向は、スギは3カ月連続増加。ヒノキ及びカラマツとも10月、11月の増加から12月は横ばいに。トドマツは3カ月連続横ばい推移。

・在庫動向は、スギ、カラマツとも10月、11月の減少から12月は横ばいに。ヒノキは10月の減少から11月は横ばい、12月は再び減少に。トドマツは10月の減少から11月、12月は横ばいに。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	29/10月	11月	12月
スギ	28.6	21.4	14.3
ヒノキ	50.0	30.0	10.0
カラマツ	0.0	0.0	50.0
トドマツ	25.0	0.0	25.0

・製材用原木の価格動向は、スギ、カラマツ、トドマツともやや強含み。

・ヒノキはやや弱含み。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・カラマツ、トドマツとも小径木が不足。木質バイオマス材集荷の影響が大きい（北海道）。
- ・9月入荷のトドマツ丸太が大幅増。これから造材増える見込み。消費は横ばいだが、フル生産で順調。トドマツ在庫は不足感が残るが、一時期から見ると改善（北海道）。
- ・スギ3m丸太が品薄（関東）
- ・スギ丸太の仕入は同量で推移。ヒノキは製材量増によりやや増加。消費はヒノキ生産量増加のためスギはやや減少。集荷し易い時期に入ったため、在庫を持ち過ぎないようにする（中部）。
- ・天候の関係か、スギ丸太の相場が高いためか、ヒノキ丸太の入荷量が少ない。消費は稼働日の関係で12月は減少。在庫は12月に向けて増やす見込み（中国）。
- ・入荷・消費動向は、スギが値上がりした分ヒノキの出材が少なくなっているのではないかと。在庫動向はヒノキ丸太3mが少ない（中国）。
- ・スギ丸太は順調に入ってきている。消費は受注が多いため増加傾向にある（九州）。
- ・入荷は台風等の天候不良がなければ順調な出材が見込まれるのでは。消費はKD無垢材、構造材等の不足感の引っ張り次第（九州）。

(原木価格)

- ・合板メーカーが11月より値上げ。これによってカラマツ、トドマツの価格上昇気運有り（北海道）。
- ・トドマツ丸太がジリジリ高くなっている（北海道）
- ・スギの価格は変動しないと思われる。ヒノキは上昇しているが、量が集まれば多少落ち着くものと思われる（中部）。
- ・ヒノキ丸太は若干値戻し。スギ3mのみ高い（中国）。
- ・ヒノキ丸太の価格は10月がピークと予想。11月は横ばいもしくはやや下落と予想（中国）。
- ・他社の製材工場も忙しいため、スギ原木価格が上昇している（九州）。
- ・スギはどの径級も単価上昇は止まらないのでは（九州）。

29年10月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/10月	11月	12月
生産動向	スギ	21.4	21.4	14.3
	ヒノキ	20.0	20.0	0.0
	カラマツ	50.0	50.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	△ 25.0
出荷動向	スギ	35.7	28.6	21.4
	ヒノキ	30.0	30.0	0.0
	カラマツ	50.0	50.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	△ 25.0
在庫動向	スギ	△ 35.7	△ 42.9	△ 28.6
	ヒノキ	△ 30.0	△ 30.0	△ 20.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材品の生産動向は3カ月連続増加。ヒノキ、カラマツとも10月、11月の増加から12月は横ばいに。トドマツは10月、11月の横ばいから12月は減少に。

・スギ製材品の出荷動向は3カ月連続増加。ヒノキ、カラマツとも10月、11月の増加から12月は横ばいに。トドマツは10月、11月の横ばいから12月は減少に。

・スギ、ヒノキ製材品の在庫動向は3カ月連続減少。カラマツ、トドマツとも3カ月連続横ばい推移。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		29/10月	11月	12月
スギ	柱角 KD10.5×3	21.4	14.3	0.0
	柱角 KD12×3	7.1	0.0	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	0.0	0.0	0.0
	タルキ	14.3	7.1	7.1
	間柱	8.3	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	10.0	0.0
	ラミナ	△ 12.5	0.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	40.0	30.0
柱角 KD12×3		30.0	10.0	0.0
土台角 10.5×4		40.0	20.0	10.0
土台角 12×4		30.0	10.0	0.0
通し柱 12×6		12.5	12.5	0.0
ラミナ		0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	—	—	—	

・スギ製材品の出荷価格動向は、総じて保合い。

・ヒノキは柱角10.5×3、土台角10.5×4が品薄のため強含み。その他は保合い。

・カラマツは梱包仕組み板、ラミナとも保合い。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・予測通りパレットの受注が増加した（北海道）。
- ・フル生産。サンギ、胴縁、ヌキ等の羽柄材とも出荷堅調。在庫は生産した分を販売して横ばい（北海道）。
- ・稼働日並みの生産。ヒノキの注文ありやや増加。出荷はそれなり。近隣（地元）の荷動きは良くない。年末に向け在庫調整していく（中部）。
- ・生産、出荷とも12月は稼働日の関係で減る。在庫量は変えない（中国）。
- ・可能な限りフル生産状態。出荷はプレカット工場の仕事が増えているようだ。在庫はA品が減少しており欠品状態が続く（中国）。
- ・スギ製材品は受注が多いため、生産・出荷動向とも増加傾向（九州）。
- ・KD構造材の引き合いは相変わらず強く、このまま年内は続くのでは。適正在庫の確保はまだ難しい（中部）。

(製材品出荷価格動向)

- ・エゾマツサンギは多少の値戻し中。需要が増えればもう一度値上げか（北海道）。
- ・スギ製材品の価格は安定（関東）。
- ・スギ・ヒノキとも10月に価格改定があり、一部のアイテムで小幅であるが値上がり有り（中部）。
- ・スギ製品の単価変動なし。ヒノキ3~4m 10.5角については品不足のため値上がり傾向が続く（中国）。
- ・ヒノキ製材品は11月までは上がる見込み（中国）。

29年10月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/10月	11月	12月
仕入動向	米マツ丸太	△ 100.0	100.0	△ 100.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	0.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	△ 100.0	50.0	△ 50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太製材用原木の仕入動向は10月の減少から11月は増加、12月は再び減少に。NZラジアータは3カ月連続横ばい推移。

・米マツ丸太製材用原木の消費動向は10月、11月の横ばいから12月は減少に。NZラジアータは3カ月連続横ばい推移。

・米マツ丸太製材用原木の在庫動向は10月の減少から11月は増加、12月は再び減少に。NZラジアータは3カ月連続横ばい推移。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/10月	11月	12月
米マツ丸太	100.0	50.0	50.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太は強含み。

・NZラジアータ丸太は保合い。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・米マツ丸太の入荷は現地輸出能力に問題があり、年間を見通せば減少の方向に行く。消費は、長雨・台風等の影響を受け消費がやや緩慢になっている。
- ・NZラジアータ製材用原木の荷動き動向は、入荷・消費・在庫とも変化なし。

(原木価格動向)

- ・現地需給の引締まり、為替状況からまた船運賃の上昇傾向もあり、輸入価格は上昇していく見通し。
- ・NZラジアータ丸太の購入価格は変化なし。

29年10月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	29/10月	11月	12月
生産動向			
米マツ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向			
米マツ製材品	△ 50.0	50.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向			
米マツ製材品	0.0	0.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産動向は10月、11月の横ばいから12月は減少に。NZラジアータ製材品は横ばい推移。

・米マツ製材品の出荷動向は10月の減少から11月は増加、12月は横ばいに。NZラジアータ製材品は横ばい推移。

・米マツ、NZラジアータ製材品の在庫動向は横ばい推移。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/10月	11月	12月
米マツ平角	50.0	50.0	50.0
米マツ正角	—	—	—
米マツ小割	—	—	—
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)	0.0	0.0	0.0
NZ土木用材	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

・米マツ平角の出荷価格動向は強保合い。

・NZ梱包材（割板、割角）、土木用材とも保合い。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・NZラジアータ製材品の荷動き動向は、生産・出荷・在庫とも変化なし。

(製材品出荷価格動向)

- ・輸入品全体が強含む中で、米マツも原木価格の上昇によって、調整は続く見通し。
- ・NZラジアータ製材品の出荷価格も変化なし。

- ・
- ・